

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10370

研究課題名(和文)暮らしの中でできる一般市民向け末期がん患者支援に関する教材・啓発プログラムの提案

研究課題名(英文) A Suggestion for an educational materials and educational programs on terminal cancer patient support for the general public that can be done in daily life

研究代表者

竹下 裕子(吉田裕子)(Takeshita, Hiroko)

摂南大学・看護学部・准教授

研究者番号：10437668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、一般市民が身近な暮らしの中で末期を含むがん患者を支える際に生じる課題抽出と課題解決に向けた教材開発、啓発プログラムの提案を行うことである。具体的には(1)終末期がん患者の社会的ネットワークに関する文献検討を行い、主介護者・家族、看護師が、患者を支える際に生じる課題について明らかにした。(2)一般市民900名を対象に無記名自記式質問紙による大規模インターネット調査法を実施した。対象者の背景、病状、交流の変化、支援、困難等の調査結果を得た。これらの成果を基に教材開発と啓発プログラムを作成し、Webサイトの基礎を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般市民が、身近な人の進行・末期を含む“がん”罹患を知った際、その人とどのように関係を維持し、支援しているのか、支援の際に生じる課題を明らかにすることで、暮らしの中で一般市民の支え手としての活躍を高めることに貢献できると考える。がん罹患患者、一般市民双方が安定した関わりを維持でき、身近なコミュニティ全体でがん罹患患者の意向に沿える環境整備を進めることが可能となる。家族構造の変化に伴い、がん罹患患者と同居、主介護者とのネットワーク内に限らず、主介護者で無い親子や親戚、友人、仕事仲間等、様々な関係性を開き、支援を引き出す場としてWebサイトを構築し、実際の運用へと発展させていくことが可能となる。

研究成果の概要(英文)：In this research, we proposed educational materials and enlightenment programs for extracting and solving problems that arise when general citizens support cancer patients, including terminal ones, in their daily lives. Specifically, (1) we reviewed the literature on the social network of terminally ill cancer patients, and clarified the issues that arise when primary caregivers/family members and nurses support patients. (2) A large-scale Internet survey was conducted using anonymous self-administered questionnaires targeting 900 general citizens. We obtained survey results such as the subject's background, medical condition, changes in interaction, support, and difficulties. We interviewed medical professionals about their issues, and based on these results, we developed teaching materials and constructed the foundation of a website that reflects awareness programs.

研究分野：がん看護学

キーワード：がん罹患患者 一般市民 支援 関係性 困難

1. 研究開始当初の背景

2016年12月「がん対策基本法」が一部改正され、がん患者が安心して暮らせる社会の構築を目指し、がん患者に関する国民の理解をさらに深めることが求められている。がんは経過が進むにつれて身体症状と日常生活動作障害が増し重複して存在するようになり(恒藤、1999)患者は死に直面することから全人的苦痛を抱える。このことは、患者の人間関係や社会との関係に影響を及ぼし、特に末期がん患者は身近な周囲の人との関係が縮小され希薄となり孤独に陥る自己を認知する状況にある一方で、末期がん患者は周囲の人と関係性を維持し、より良くつながることで、日ごろの精神的緊張を解き放ち自分らしくありのままに居ることや幸福感を得ることを可能にする(吉田ら、2007)。しかし、末期がん患者や家族を取り囲む周囲が、身近な人の進行・末期を含む“がん”罹患を知った際、その人とのように関係を維持し、支援しているのかが未だ明らかにされていない。本研究の目的は、一般市民が身近な暮らしの中で末期がん患者を支える際に生じる課題抽出と解決のための取り組みについて、一般市民と医療従事者の双方を対象に調査し、課題解決に向けた一般市民向け末期がん患者支援のための教材開発と啓発プログラムの提案を行うことである。本研究により、一般市民の末期がん患者支援への関心をより高め、自らの支援の可能性を見出せるような啓発プログラムの提案と発展が可能になると考える。

2. 研究の目的

一般市民が身近な暮らしの中で末期がん患者を支える際に生じる課題抽出と解決のための取り組みについて、一般市民と医療従事者の双方を対象に調査し、課題解決に向けた一般市民向け末期を含むがん患者支援のための教材開発と啓発プログラムの提案を行うことである。

3. 研究の方法

(1) 終末期がん患者の社会的ネットワークに関する国内文献検討を行い、終末期がん患者と主介護者・家族との関係性が主介護者・家族に及ぼす影響、および看護師との関係性が支援提供者の看護師に及ぼす影響について明らかにした。方法は、文献の選定として医学中央雑誌 Web 版にて2018年7月文献検索実施。統制語「末期患者」「癌看護」「社会的ネットワーク形成」などをキーワードとし、検索期間2006~2018年で全165件検索。終末期がん患者の社会的ネットワークに関わる事象を含むことを選定基準として95件のフルテキスト精読後、最終的に30文献選定。このうち、主介護者(親子、兄弟、夫婦)・家族(親類、友人を少数含む)を対象に調査された19文献、看護師を対象に調査された12文献を分析。分析は質的帰納的分析を実施した。

(2) 20歳以上の一般市民900名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、性別、年代、身近な人ががんと診断された経験の有無、関係性、病状、交流の頻度や深さの変化、会話や連絡内容、支援内容、困ったことや悩んだこと等で、インターネット調査法を実施した。質問紙は研究者らで独自に作成し、プレテストを実施し精選した。倫理審査委員会の承認後、調査は、インターネットを通じて実施し、調査項目は15問程度とした。

(3) (2)のデータを単純集計、自由記述の質的帰納的分析を行い、対象者の背景や、がんの進行度による相違について比較検討を行った。さらに、身近な人ががんの診断を受けた経験の有る一般市民542名のうち、主介護者で無い455名に対象を絞り、再分析を実施した。一般市民全体、および主介護者で無い人の困難の内容等、特徴的な課題を明らかにした。医療従事者を対象に支援の課題抽出を目的とした調査の実施については、新型コロナウイルス感染症による医療逼迫や医療従事者の過負担に配慮し、計画は医療従事者が考える一般市民が暮らしの中で身近にできる(末期)がん患者支援の内容、課題について、聞き取りの実施へ変更した。

(4) 以上から得られた資料を基に、一般市民が身近な暮らしの中で末期を含むがん患者を支える際に生じる課題解決に向けた教材開発と啓発プログラムの作成へ進めた。がん患者の主介護者で無い人を利用者分類システムの一つに取り入れ、設定したプログラムを作成した。プログラムはWebサイトに取り入れて構築することとし、ホームページ制作会社と検討を重ねて、支援内容を第一、第二、第三階層に分岐させたサイトマップを作成した。がん患者支援を一般市民の方と一緒に考えるためのWebサイトの基礎構築、及びデザイン化を図った。

4. 研究成果

(1) 終末期がん患者の社会的ネットワークに関する国内文献検討を行った結果、終末期がん患者との関係性が主介護者・家族に及ぼす影響は、介護主体者としての役割と責任を全うしようと患者の介護を最優先に尽くすが、介護負担に限界を感じ、負担分散や限界域拡大に向けて医療的・社会的支援を模索する状況が示された。親類・近隣・友人との関係性に着目した調査は少数であり、終末期がん患者の社会的ネットワーク内で支え手としての活用を高めるために調査の実施が今後の課題である。一方、看護師に及ぼす影響は、患者の意思や全体像把握に限界が生じ、

関わりに慎重さと覚悟が必要で親しみにくく、死生に関わる会話や自らの感情表現に自信がもてない中で、チーム力を発揮しケアを充実させようとする状況が示された。終末期がん患者の社会的ネットワーク内において看護師は重要箇所に位置すると考えるが、看護師への現場教育やネットワーク内にある他の有用な医療職または支え手になり得る人の活用を高める余地についての検討が課題である。以上は、第33回日本がん看護学会学術集会(2019年)にて発表を行った。

(2) 一般市民を対象に実施したインターネット調査法の結果、調査対象者は900名で、身近な人ががんと診断された経験のある人が542名、無い人が358名であった。がんに罹患された方との関係性や同居の有無、介護の有無、交流の変化や手段、どのような支援を行ったか、あるいは行えなかったか、困ったこと、悩んだこと等を具体的に回答を得た。経験のない人に対しては、今後、もしもそのような経験をされた場合には、どのように関係を保つのか、支援をするのか、困るだろうと予測されること等の具体的な記述を得た。

(3) インターネット調査のデータの単純集計、自由記述の質的帰納的分析により以下の結果を得た。対象：一般市民900名(男性489名、女性411名)、年代：最多は40歳代、次いで50歳代、60歳代。一般市民のがん罹患患者やその家族の経験への関心度：非常に関心がある・関心があるが61%を占めた。がん罹患患者やその家族に対する支援への関心度：非常に関心がある・関心があるが55%を占めた。身近な人ががんと診断された経験有りの者(以下、経験有り者)542名(60%)、無し(以下、経験無し者)358名(40%)で、経験有り者について、がんと診断された本人(以下、がん罹患患者)との間柄の最多は親子(43.9%)、次いで親せき(28.8%)、友人(9.8%)であった。主介護者では「ない」が84%、同居は「していない」が77%を占めた。がん罹患の知らせについては、知らせを受けた最多は「家族・親せきから」295名(54.4%)、次いで「本人から」212名(39.1%)、「友人」23名(4.2%)で、病状：早期がん176名(32.5%)、がんの再発・転移83名(15.3%)、末期がん188名(34.7%)であった。関係性の変化(3段階評価)：深くなった155名(28.6%)、変わらない378名(69.7%)、疎遠になった9名(1.7%)、交流頻度の変化(3段階評価)：増えた187名(34.5%)、変わらない329名(60.7%)、減った23名(4.2%)等であった。以上は、第35回日本がん看護学会学術集会(2021年)にて発表を行った。

インターネット調査結果の自由記述の分析を行い、困難として表された内容を抽出しコード化、類似する内容に従ってカテゴリー化した。自由記述のコードは259、最終的に7カテゴリーに集約され、【病状や心の状態に合わせた接し方や対応方法に悩む】【本人の意向を汲み治療や療養場所を選択していくことについて悩む】【病状の進行や身体症状の悪化に対して悩み不安になる】【がんや死に直面し精神的な辛さが続き痛手を受ける】【見舞いや介護、家族の間に生まれる心の溝に疲弊する】【思うように会えない辛さがある】等であった。本調査結果では、がんと診断された人と同居や主介護者で無い人が大半を占めたが、身近な人のがん診断後には、がんの病状と心の状態に合わせ、意向を汲むことを大切に関係しようとするなかで困難感を生じている。さらに患者本人にとって望ましい治療や療養場所の選択に苦慮、自身も精神的な痛手を受けて、関係する人との間に心の溝が生まれる状況で困難感を抱いていると推察される。家族構造の変化があるなかで、一般市民が安心して関わりを維持でき、身近なコミュニティ全体でがん罹患患者の意向に沿えるような環境整備の検討が課題となる。以上は、「がんと診断された人と身近な関係にある一般市民が抱く困難感」として2022年2月に第36回日本がん看護学会学術集会にて発表した。

(4) 本研究の最終年度は、日常的に臨床現場でがん患者に接する医療従事者を対象に、インターネットリサーチを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による医療現場の逼迫や負担に配慮し、医療従事者が考える一般市民が暮らしの中で身近にできる末期がん患者支援の内容、課題について聞き取りを行い、一般市民900名を対象に実施したインターネット調査法の結果、身近な人ががんの診断を受けた経験の有る一般市民542名のうち、主介護者で無い455名を対象を絞り、再分析を実施した。主介護者でない人の背景や困難感の内容等、特徴的な課題を明らかにした。

これらの資料を基に、課題解決に向けた一般市民向け末期がん患者支援のための教材開発と啓発プログラムの作成へ進めた。地域包括ケア構築のためのintegrated careを実現するフレームワークとして、システム全体で統一された利用者分類システムを用いることが提案されており(筒井、2014)、一般市民における主介護者でない人を利用者分類システムの一つに設定したプログラムを作成した。プログラムはWebサイトの構築を行うこととし、ホームページ制作会社と検討を重ねて、支援内容を第一、第二、第三階層に分岐させたサイトマップを作成した。がん患者支援を一般市民の方と一緒に考えるためのWebサイトの基礎構築、及びデザイン化を行い、「教材開発と啓発プログラムの提案」の成果を得た。以下に、構築したWebサイトの一部を掲載する。今後は、大規模インターネット調査法の結果を、さらに質問項目間の比較や相互関連につ

いても探究を深め、教材・プログラムに反映させること、そしてWebサイトを実際に運用していくことが必要となる。なお、本研究の一部は論文化を行い、採択が決定した。

図 構築したWebサイトの一部



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 竹下裕子、山根美代子、稲垣美紀、稲垣範子、長沢美和子、田中結華、橋弥あかね、佐藤禮子	4. 巻 37
2. 論文標題 がんの診断を受けた人と身近な関係にある一般住民が抱く困難感と支援の実態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山根美代子、竹下裕子、稲垣美紀、稲垣範子、長沢美和子、田中結華、橋弥あかね、竹下篤、佐藤禮子
2. 発表標題 がんと診断された人と身近な関係にある一般市民が抱く困難感
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹下裕子、山根美代子、稲垣美紀、稲垣範子、長沢美和子、田中結華、橋弥あかね、竹下篤、佐藤禮子
2. 発表標題 一般市民が身近な人のがん罹患を知ることにより生じるがん罹患者との関係性変化と支援の実態
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹下裕子、山根美代子、稲垣美紀、稲垣範子、田中結華、橋弥あかね、佐藤禮子
2. 発表標題 終末期がん患者と主介護者・家族との関係性が主介護者・家族に及ぼす影響－社会的ネットワークの視点から－
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根美代子, 竹下裕子, 稲垣美紀, 稲垣範子, 佐藤禮子
2. 発表標題 終末期がん患者と看護師との関係性が支援提供者である看護師に及ぼす影響 社会的ネットワークの視点から
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 結華 (Tanaka Yuka) (80236645)	摂南大学・看護学部・教授 (34428)	
研究分担者	稲垣 美紀 (Inagaki Miki) (60326288)	摂南大学・看護学部・教授 (34428)	
研究分担者	橋弥 あかね (Hashiya Akane) (00457996)	大阪教育大学・教育学部・准教授 (14403)	
研究分担者	竹下 篤 (Takeshita Atsushi) (30298765)	大阪医科薬科大学・医学部・非常勤講師 (34401)	
研究分担者	佐藤 禮子 (Sato Reiko) (90132240)	東京通信大学・人間福祉学部・名誉教授 (32826)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	稲垣 範子 (Inagaki Noriko) (90782714)	摂南大学・看護学部・講師 (34428)	
研究 分担者	長沢 美和子 (Nagasawa Miwako) (30845748)	摂南大学・看護学部・助教 (34428)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	山根 美代子 (Yamane Miyoko)	姫路赤十字病院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関